

令和2年11月17日

石巻市議会議長 大 森 秀 一 殿

会 派 名 ニュー石巻  
代表者氏名 会長 阿 部 欽一郎

## 調査報告書

調査した概要は次のとおりであります。

### 記

- 1 調査者氏名 阿部 欽一郎、阿部 久一、奥山 浩幸、高橋 憲悦、  
遠藤 宏昭、 楯石 光弘、阿部 浩章、安倍 太郎、  
木村 忠良、 森山 行輝、
- 2 調査期間 令和2年11月10日（火） 1日間
- 3 調査地 複合文化施設、日本製紙石巻工場、日本製紙石巻雲雀野発電所
- 4 目的 現在、施工している複合文化施設の進捗状況を確認するもの。  
日本製紙石巻工場では新型コロナウイルス感染拡大で衛生意識が高まる中、抗ウイルス効果のある紙の生産・販売をしていることから、その概要について伺うもの。  
また、日本製紙石巻工場及び日本製紙石巻雲雀野発電所を視察するもの。

## 5 調査概要・所感・調査による石巻市への政策提言等

### 【複合文化施設】 (まきあーとテラス) 石巻複合文化施設について

#### ○ 調査目的

東日本大震災から9年8か月が経過し、復興庁が定める復興期間も残り4か月、復興期間におけるハード事業の総仕上げである「複合文化施設」の進み方と、同施設は、オープン後の稼働率や管理経費が危惧されている。そこで、完成間近な同施設を視察し、当該事業の内容と成果、課題について、調査を行うものである。

#### ○ 調査概要

当該施設の進捗状況は、令和2年10月末時点で、建築工事95,89%、電気設備工事85,2%、機械設備工事79,6%、舞台設備工事79,0%である。今回の視察は、市教育委員会の職員の説明により、常設展示室、大ホールに足を踏み入れて確認した。

#### ○ 所感

現地移動の際、借上げバスの車窓から同施設を鳥瞰すると、多くの議員から「背景にあるトヤケ森山（通称「馬っこ山」）の稜線と、三角や四角の尖った屋根がアンバランスであり、設計の際に、周辺のロケーションを考慮したのか」という疑念が寄せられた。

また、本市にある「遊楽館」の複雑な屋根の構造が起因するといわれている「雨漏りやメンテナンスの観点」からも、なぜ、このような形態になったのかという疑問が車中で囁かれていた。

現地に到着し、まず常設展示室を案内された。博物館と市民ホールを複合的に組み合わせたとはいえ、展示スペースの狭隘化が顕著であった。

当会派では、複数の都市の博物館や展示室等を視察研修で訪れたが、期待外れの感が否められなかった。

次に、大ホールを視察したが、客席や舞台装置が未完成のため、空間イメージでの説明であったが、常設展示室と同様、満足のいくものでなく、市民待望の大ホールのイメージからは程遠いものと感じられた。

音響に力を入れているとの説明だったが、敬老会や成人式あるいは超満員でのイベントを想定した場合、ステージと二階席（バルコニー席）の距離感が近く、圧迫感を感じるのではないだろうか。また、議会でも議論になった、ステージに一般的な緞帳がないことは、このホールに「華」がない、「顔」がないに等しく、寂しく虚しい思いをした。

同施設を建設に当たり、プロポーザル方式で設計等を行って、審査員による審議を経て、市民団体に諮問してこのようになったとの市当局の説明であったが、市民共通の財産であり、高度な識見を有する専門家の意見同様に、市民感覚をもつ市議会や利用者団体の声を十分反映すべきであったと感じた。

あわせて、同施設の維持管理が高額で、今後の当市の厳しい財政状況に云々と他人事のように市当局は、考えているようだが、それを見越しての建設工事の発注であり、十分なる説明責任を果たして欲しい。

まとめに、市民待望の同施設であるが、概観への思いが全てのように建設した市と市民との思いが乖離する、石巻市特有の「負の財産」にならないことを期待する。

○ 調査による石巻市への政策提言等について

これまでの市政運営の主流は、コンサル委託等であり、市職員を含む市民の思いとかけ離れたものが多い。建築物の完成など成果品が出てから、不具合や希薄な必要性などが問題となる。これまでの反省を踏まえて、発想の転換を期待する。

是非とも、市政運営を一般家庭だったら「どうする？」というような、市民感覚に立った、市民目線、市民起点、市民公益を最優先に市政運営を行なっていただくよう提案します。

**【日本製紙㈱石巻工場】 抗ウイルス上質の説明及び発電所について**

○ 調査目的

現在、世界中でコロナウイルス感染拡大防止、脱プラスチックごみに取り組まれている。このような中、東日本大震災の一大被災地である石巻市において、いち早く復旧復興を遂げられ、創業80周年を迎える日本製紙株式会社は、先進技術を駆使して「ウイルス上質」開発及び地球温暖化対策として木質バイオマスを積極的に利用した発電事業を行っている。その中核工場として石巻工場が躍進されている。これは、私たち石巻市民の誇りであり、その現状を視察することにより、更に理解を深めようとするものである。

○ 調査概要

当該施設の事務所で15分程度のプロモーションの映像を視聴し、その後担当者から「抗ウイルス上質」について説明を受け、サンプルを見せていただきながらのデスクワーク後、工場見学を行った。

○ 所 感

「抗ウイルス上質」の開発は、一部企業秘密に属する部分があり、私たちへの説明は難しいところがあるものの、同社の時代を先取りした開発技術と熱意に感銘した。特に、「抗ウイルス上質」は、「抗ウイルス」「抗菌」「消臭」性能を有する印刷用紙で、通常の印刷・加工も可能であり、様々な用途に使用可能であり、今後、利活用が広がるものと推察される。当議会でも議論のあった「脱プラスチックごみ」を考えた場合、プラスチック製品の代替品としての活用が期待される。議員の中から、現在、気仙沼市で取り組んでいる、庁内で使用するクリアフ

ファイルを紙製に変えて、環境対策をPRしている例が紹介され、日本製紙㈱側からも賛意と謝意が示された。(参考までに、気仙沼市で使用している紙製クリアファイルを別添しました。)

また、日本製紙石巻エネルギーセンターの見学では、「木とともに未来を拓く」をスローガンに、製紙部門とともにエネルギー事業に積極的に取り組まれ、石巻地域の産業振興と雇用の創出貢献されていることが理解できました。

○ 調査による石巻市への政策提言等について

全国には、企業城下町といわれる都市が数多くあります。トヨタグループの豊田市、王子製紙の苫小牧市、旭化成の延岡市など、企業と自治体がスクラムを組んで活動しております。数日前、日本製紙釧路工場が印刷紙部門から撤退し、本市にある石巻工場が同社における印刷紙の製造部門の基幹工場になるとの報道がありました。

また、数日後に開催される都市対抗野球の東北代表として同社の硬式野球部が出場します。都市対抗ですので、「石巻市」が全国に発信されます。

これらを含めまして、同社が当市に貢献された実績を踏まえまして、「日本製紙の城下町石巻市」を標榜し、実践してはどうでしょうか。例えば、石巻市の行政運営上、印刷する用紙はすべて日本製紙の製品を使用する。現に、スバル自動車の企業城下町の太田市では、公用車はすべてスバル製の車両だそうです。それくらい徹底して企業を盛り上げております。

併せて、前述の「抗ウイルス上質」を使用した市の封筒、クリアファイルなど、早速取り入れ、「この物品は、日本製紙で製造された、「抗ウイルス」「抗菌」「消臭」性能を有する「npi抗ウイルス上質」を使用しております。」と明記すれば、市民の環境に関する啓蒙と、日本製紙様への大きなエールになることを確信いたしますが、いかがでしょうか。

6 調査経費 32,000円